特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　運営

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	１月末で入所稼働94.6%、短期102.1%、合計で95.8%となった。
②	外部研修受講、資格取得にチャレンジする職員が増えた。
③	移乗用リフト、超低床ベッド、各種車椅子、見守りロボット等を導入できた。
④	外壁補修、空調更新の入札実施。
⑤	大木町社会福祉法人連絡会の副会長施設となった。

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	通所利用者16.5人/日で目標の22.5人/日を大きく下回った。
②	訪問介護が単年度黒字化できなかった。
③	介護職は確保できたが、看護職が充足できなかった。有給取得率62.8%で70%未達。
④	地域との交流行事を行う事ができなかった。
⑤	業務用洗濯機、乾燥機、厨房機器(洗浄機、冷蔵庫、冷凍庫)の更新ができなかった。

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	介護保険施設として安定した運営を継続出来る体制(人員・設備・財務)を整える(４年目/中期５年)。
②	社会福祉法人として地域に貢献できる活動を行う(４年目/中期５年)。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①-1	看護職を充足させると共に介護職の配置を維持し、余裕のある人員配置を確保する。働きやすい職場環境を整える。
①-2	施設全体のサービスレベルを向上させる為に職員個々の能力を向上させる。
①-3	器具・備品を充実させ、職員の身体負担を軽減する。
①-4	入所実稼働(入院除く)95%、短期入所75%、合計で92%。通所利用者20.0人/日を目標とする。訪問介護の単月黒字化を目指す。
①-5	設備・備品の更新を継続する。
②-1	大木町社会福祉法人連絡会活動の推進。
②-2	地域との交流を推進し、当法人として出来る活動を行う。

詳細

①-1	看護職は派遣・紹介を含め、費用をかけても補充を行う。産休・育休復帰者、定年再雇用者が働きやすいように勤務時間・日数等の柔軟な対応を継続する。優秀なベテランスタッフを教育係とし若手の指導を行ってもらう。有給休暇の取得推進(70%以上）の為に取得率の低い職員との面談等を行う。福利厚生のサービス(久留米広域勤労者福祉サービスセンター、大木町アクアス)の利用の推進。必要に応じての個人面談の実施。
①-2	リモート研修も含め研修の機会が増えたので職員一人年一回の外部研修受講を推進する。令和3年改訂で国も推進している認知症対応力向上の為に、認知症介護実践者研修・リーダー研修を各1名以上受講させる。介護職員ファーストステップ研修等職員のステップアップになる研修の受講や資格取得の推進でモチベーションの向上につなげる。
①-3	移乗用リフトの拡充、特殊浴槽の更新、介護ロボットの導入を行い身体的負担を軽減する。又、器具類の適切な使用法の周知を徹底し利用者の安全かつ職員の負担軽減を図る。
①-4	看護も含めた職員の能力向上により異常の早期発見・治療につなげ入院による空床を減らすと共に、グループ内での連携により空床が出た場合の早期入所を行う。在宅系はコロナ禍での利用の減少を最小限にとどめ利用者数を早期に回復する為に、サービスレベルを上げ既存利用者の確保と新規獲得を目指す。令和３年４月の制度改正に適切に対応し収入を安定させる。
①-5	業務用洗濯機、業務用乾燥機は今期の更新。冷蔵庫、冷凍庫は補助金に該当するので食器洗浄機を含めて来期に更新行う。
②-1	副会長施設として協議会で積極的に活動する。コロナ禍で生活困窮者等の住居訪問等は難しいが、情報提供・物品提供等を行う。
②-2	コロナ禍にあっても可能な活動を推進する。

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　みのり

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	コロナ禍で入居者様の不安がある中、ユニット内での季節行事を楽しんでもらうことが出来た。
②	家族との面会が制限される中、入居者様の心理状態を理解しながら一人一人に声掛けすることで精神面でのケアをして笑顔を引き出すことが出来た。
③	
④	
⑤	

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	入居者様の身体状況に合ったケアの統一が出来ていなかった。
②	職員間での連携不足により入居者様への対応に遅れがあることもあった。
③	個々の目標に沿った研修への積極的な参加が出来なかった。
④	
⑤	

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	入居者様が日常生活を維持できるようにユニット内での活動や一人一人にあった介護支援を行う。
②	感染症予防に努め、多職種との連携・情報共有を図り疾病等の早期発見、迅速な対応をする。
③	職員のスキルアップ・資格取得を積極的に行う。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	継続的に行えるレクリエーションやラジオ体操、気分転換に茶話会などユニット内で出来る活動を行い穏やかな生活を提供する。
②	入居者様の変化に気付けるように個人のバイタルを把握し、観察力を高める。
③	介護知識の習得と個々のスキルアップの為、外部研修への参加、資格取得を行う。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　パラソル

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	職員の外部研修への参加が出来た。
②	入居者様の座席位置等見直し、個別でのケアに取り組むことが出来た。
③	申し送りノート・ユニット会議等でケアの見直しをし、多職種との連携を図ることが出来た。
④	入居者様の身体に合わせた車椅子の見直しが出来た。
⑤	

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	コロナの為、ユニット行事開催の機会が少なかった。
②	入居者様より、介護スタッフへの不安・苦情が多く聞かれた。
③	皮膚の損傷等のヒヤリハットが多く、職員のケアに統一を図ることが出来なかった。
④	
⑤	

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	入居者様一人一人が笑顔で安心して過ごして頂けるよう支援する。
②	事故防止に努め、安全に暮らして頂けるよう支援する。
③	職員の介護技術・知識の向上を図る。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	コロナ禍の中で孤独感を感じないよう、入居者様との時間を作り満足して頂けるよう努める。
②	ルーティン業務の見直しを実施し、ユニット職員同士の連携を図る。
③	ヒヤリハット・事故発生時には発生要因を見直し、多職種との連携を図り再発防止に努める。
④	リモート研修等の外部研修に参加し職員一人一人の介護技術・知識の向上を図る。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　ひなたぼっこ

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	ゆとりをもってフロアで過ごせる空間の確保を行い、車椅子で自走しやすい動線作りを行った。
②	入居者様の表情や雰囲気等の変化に対しその都度チーム内や多職種への報連相を行い迅速な対応が出来た。
③	職員の提案や発信力が増加し、アセスメントの幅が広がりアプローチやサポートする面においてケアの向上に繋げる事ができた。
④	
⑤	

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	ルーティン業務の見直しをスタッフ間で話し合うも最善には至らず、通常業務が主になり入居者様との交流を行う時間がない期間があった。
②	チームでの情報共有が時折出来ておらず対応が統一されていない場面があった。
③	新型コロナウイルスにより外部研修への参加が出来なかった。
④	
⑤	

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	入居者様が安心感を持ち笑顔で毎日を生活できるよう支援する。
②	ルーティン業務の見直しを行い、業務改善・利用者様との交流時間の増加を行う。（前年度より更新）
③	ストレスマネジメントに取り組み、介護職員としての自尊心向上を図る。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	研修へ参加し職員のスキル向上に繋げる。
②	状態変化や急変等を察知する観察力を向上させ、チーム内・多職種との情報共有を行い迅速なアプローチができる力を培う。
③	会議や職員との面談を通して、ルーティーン業務に対する意見共有を行い業務の円滑化に繋げる。
④	職員との定期的な面談を通してユニット内での職員一人一人の役割や必要性を確認してもらい、ユニット職員としての自信を持ち、業務への問題提起や改善案等の発信力向上へ繋げる。
⑤	行事計画を立て利用者の気分転換を図る。
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　憩

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	新規利用者の転倒、転落はセンサーマットや低床ベッドの利用で削減できた。
②	リフトの導入があり、ユニットでの使用はなかったが他ユニットにて使用し介護技術の向上ができた。
③	介護技術のスキルアップのため研修に参加できた。
④	
⑤	

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	コロナにより外出をすることができなかった。
②	センサーマット等の対応はできていたが利用者の長期利用により、見直しや再検討ができておらず転倒や車椅子からの転落がみられた。
③	コロナもあり、外部研修に一人一回参加することができなかった。
④	
⑤	

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	多職種と情報を共有し転倒、転落の０を目指す。
②	外出の代わりとなる季節の行事を増やす。
③	職員のスキルアップを目指す。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	多職種と連携し、センサーマットやベッド、車いすの検討を行っていく。又、長期化に伴い出来ていなかった見直しを行う。
②	コロナ対策を取りつつ、四季にあった行事をユニット職員が一人一回行うようにする。
③	個々のスキルアップのため、外部研修等の参加を積極的に行う。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　花園

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	ルーティン業務の見直し・改善を行い、入居者様と関わる時間を増やすことが出来た。
②	座席を見直した結果入居者様同士が交流でき笑顔が増えた。
③	積極的に外部の研修に参加することができ、視野が広がった。
④	入居者様の変化に気づき、多職種と連携を図ることで健康維持ができ入院が少なかった。
⑤	

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	新型コロナウイルスにより入居者様の要望に応えたユニット行事が少なかった。
②	面会が制限され不安な入居者様への配慮が足りなかった。
③	同じようなヒヤリハットがあり、情報の共有・ケアの統一ができていないことがあった。
④	
⑤	

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	入居者様が安心して穏やかに過ごせるよう支援する。
②	多職種と連携し、ケアの統一・健康維持に努め安全に生活していただけるよう支援する。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	入居者様とコミュニケーションを図る時間を増やす。入居者様の声に耳を傾ける。
②	入居者様の楽しみとなるようなイベントを計画する。
③	目標に合わせた研修へ参加し、個々のスキルアップを図る。
④	24時間シートを活用し、ケアの統一を図る。
⑤	ヒヤリハット・事故発生時には多職種と連携し、分析・対策を迅速に行い再発防止に努める。
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　ゆとりろ

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	前年度と比べ、ヒヤリハットの件数を減らすことが出来た。
②	利用者に合った排泄用品の使用の統一、排泄ケアの見直しを行うことにより、尿路感染を防ぐことが出来た。
③	落ち着いてケアに取り組むことができ、利用者の要望に待たせることなく対応出来た。
④	
⑤	

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	コロナでの影響で参加は難しかったが、職員にどのような研修に参加したいかどうかの確認が出来ていなかった。
②	他ユニットとの情報の共有が不足し、事故へと繋がった。
③	
④	
⑤	

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	危険予測、早期発見を行う事により事故防止に努める。
②	サービス提供向上の為、職員個々のスキルアップを目指す。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	危険性がある場合は、PCの掲示板やヒヤリハット報告書の記入を行い対策に努める。
②	生活リズム、身体状況を把握し、多職種との迅速な連携を図る。
③	各職員の経験年数に応じた外部研修に参加する。多くの職員が施設内勉強会へ参加できるよう勤務の見直しを行う。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　看護

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	介護スタッフの協力があり、安定した看護サービスの提供ができた
②	サービス担当者会議等で多職種連携ができた
③	
④	
⑤	

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	余裕のある人員配置を確保し、働きやすい職場環境を整える
②	
③	
④	
⑤	

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	喀痰吸引研修を行い夜勤時の安全な吸引ができる体制づくり
②	看護の質の向上のための勉強会開催
③	多職種連携
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	看護スタッフの充足
②	専門知識の習得・活用
③	システム等を活用し記録の充実・連携を図る
④	
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　リハビリ

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	十分とは言えないが、入居者と良好な信頼関係を築き、心身の評価を通し、日々の状態に合わせながら、リハビリの提供が行えた。
②	症状や状態に適した車いすの選択（車いすクッションを含む）やベッドポジショニング・車いす上での姿勢ケアが行えた。
③	車いすシーティングや福祉用具などの助言や情報の提供が行えた。
④	
⑤	

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	外部勉強会・セミナーへの参加
②	生活行為の向上や楽しみをみいだすリハビリの提供
③	スタッフに対しての起居動作やポジショニング・車いすシーティングなどの提案が不十分であった。
④	入居者にとって達成感や満足感のあるリハビリの提供（目標・生きがいがみいだせるように支援）
⑤	

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	リハビリテーションの質の向上(利用者の介護軽減・最適なリハビリプログラムを立案、個別的生活支援の強化/入居者の意思を尊重し、状態や負担を考慮したﾘﾊﾋﾞﾘの提供)
②	姿勢ケア（ベッド上・車椅子座位）の強化
③	介護職員に対して指導・援助（安楽を考慮した起居動作やポジショニング・車いすシーティングなど）
④	福祉用具や自助具の提供/研修・セミナー・勉強会への参加
⑤	リスク委員会マニュアル見直し

目標達成のための具体的な施策／活動

①	入居者に対し適切な評価・機能訓練計画書の策定・実施・見直しなど（PC内に入所者ごとに評価や運動プログラムの記入・車いすシーティング分析・見聞録内に拘縮記録・リハ計画書を定期的に記載することで、スタッフとの業務連携をはかる。） 日常生活を営むのに必要な機能低下の防止や日常生活に変化をもたせ体を動かすことを支援、 コミュニケーションやＱＯＬの向上などの関わりに取り組んでいく。
②	ベッド上や車椅子上での安心安楽な姿勢を提供し、食事や排泄動作の介助軽減や介護職とケアの統一に取り組んでいく。
③	入居者・スタッフに対して起居・移乗時「身体の使い方」を誘導・助言・指導。 食事摂取時，姿勢(車いすﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ/座位保持能力・車いすやテーブルの高さの適合性)に配慮し，　誤嚥の予防(嚥下リハビリの実践)，食事摂取率の向上，摂取時間の効率化(余裕を持った摂食介助)，食事摂取時のリスクを軽減し，摂食・嚥下機能の維持と向上や自立性の向上に取り組む。 重度障害やターミナル期の入居者に対しては，ベッド上ポジショニングに配慮して，褥瘡予防と対策、呼吸状態の安定と安楽を図り，循環障害や変形拘縮の予防，改善，疼痛緩和などに努める。
④	入居者へ適切な評価を行い、福祉用具や自助具の情報提供とスタッフの介護負担の軽減に 取り組む。 入居者の日々のリハビリに支障がでない形で研修会や勉強会に参加できればと考える。 特養ならではのリハビリの提供を心がけ、入居者が充実した暮らしがおくれるように、生活環境設定や福祉用具の活用など技能や知識のスキルアップに努める。
⑤	マニュアルのチェツク体制の構築と業務の進め方（ケアや環境）を見直し、（それぞれの入居者の体にあった車椅子、マット・クッション・センサー等）を取り入れ、リスク軽減を考えていく。
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　通所介護

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	認知症介護実践者研修を通所から一人受講する事が出来、実際に生かすことが出来た。
②	業務分担において、入浴介助者の調整を行い、空いた時間をパソコン業務に充てたり、声を掛け合って行う事が出来た。
③	通所計画書など作成が計画的に行えるようになった。
④	異常の早期発見など、居宅支援などと連携をとることが出来ている。
⑤	

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	口腔や栄養の加算算定を行うためにアセスメントなど実施したが、開始直前で利用中止になることがあった為未達成となった。
②	コロナウイルス感染拡大予防に伴い、外部 研修に参加する頻度が少なかった。
③	コロナウイルス感染拡大予防に伴い、事業所変更や、利用の休止などで利用者数が減少に転じた。
④	新規利用者は獲得できているが、疾患により他界された方も多くおられた。
⑤	

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	通所計画書、個別機能訓練計画書等漏れがないように、声を掛け合って、業務を遂行する。
②	新規利用者獲得を行い、平均利用20人/日を目指す。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	業務の見直しや、パソコン使用の声のかけあい。
②	他居宅支援事業所への利用状況案内の配布、パンフレットの配布を行う。
③	現利用者の状態把握、異常の早期発見、健康管理の維持、困難事例に対する協議を事業所、居宅支援ご家族と引き続き連携して行う。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　居宅介護支援

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	利用者・家族から常に感謝や労いの言葉を多く頂く支援が実践できた。
②	主治医、医療連携室、看護師等と連携し、入退院時の情報共有により円滑な支援ができた。
③	包括支援センター、医療機関から、困難事例や看取り支援の依頼を受け居宅介入ができた。
④	介護保険制度、法令順守について事業所内で共有、定期的にケアプランチェックを行う事でサービス公表訪問調査で問題点はなかった。
⑤	介護保険広域連合のケアプランチェックで好評価を受けた。

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	入院や入所に移行し居宅支援を終結するケースが多くみられた。 要因：利用者の病態の変化や医療機関との連携がうまくできなかった。
②	居宅支援の給付件数の増加なし（令和1年度の月平均89件　令和2年度の月平均89件） 要因：新規利用者以上に入院、入所等は目立った。新型ウイルス感染不安により利用控え
③	ターミナルケアマネジメント加算の申請はできたが、給付管理に反映できなかった。 要因：利用者や家族の心情、新型コロナウイルス感染予防対策などで、訪問が消極的となり、加算要件を満たすことができなかった。看取り介護においては医療依存度が高く、居宅支援としては福祉用具の調整にとどまる事が多かった。グリーフケアにおいても訪問し、介護者の思いを傾聴する事を心がけて行くことも必要であった。看取り介護についても学ぶを深める必要がある。
④	併設するデイサービス利用者支援の増加がなかった。 要因：近隣の事業所希望も多く、公平中立な立場で対応したことや併設するデイサービスの取組などを積極的にアピールしていく方法を考えることが必要であった。
⑤	併設するデイサービス利用者の口腔ケア・栄養加算算定への取り組みが不十分であった。 要因：アセスメント過程において、上記加算の有効性についてのアプローチが不十分であった。

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	災害や感染症等の社会情勢の変化に応じて安心・安定した在宅生活維持・向上支援を行う。
②	よりよい居宅支援ができるように介護支援専門員としての資質の向上を目指す。
③	関係機関との連携の強化を図る。
④	新規利用者の確保。
⑤	包括等と連携し、困難事例などを支援することで地域での知名度を高める。

目標達成のための具体的な施策／活動

①	・利用者が住み慣れた自宅で安心して生活が続けられるように、介護保険申請～介護サービス利用及び地域の社会資源を活用して地域全体で取組、支援する。
②	・介護保険法の法令順守、集団指導及び適宜開催される外部研修、内部研修等に参加する。 ・ICTの活用で業務の効率化を図る。 ・主任介護支援専門員更新研修等、介護支援専門員としての必要な研修を受ける。 ・主任介護支援専門員更新研修要件を満たす研修を受ける。 ・サービス公表制度を活用して、業務改善、見直しを行う。 ・特定事業所加算要件の継続 〇職員の健康管理、感染症予防対策の徹底 〇週1回の居宅会議、事業所内での情報共有 〇介護支援専門員実務研修の受け入れ 〇居宅マニュアルの見直し等
③	・ICTを活用した関係機関との連携（主治医等） ・個別ケース等について事業所内で情報を共有し適切な支援に導く。 ・処遇困難事例に関しては、主任介護支援専門員（施設長）や包括職員から指導や助言を受ける。 ・主治医、医療連携室、地区民生委員などと情報を共有を強化し速やかな問題解決策を講じる。 ・併設のサービス事業所との情報の共有。 ・関係機関と連携し、入退院時のサービス調整ができる。 〇新設される退院時情報連携加算　50単位の算定要件を満たす取り組みを行う。 ・大木町包括と連携し、介護支援専門員の後進の育成や質の向上に向け取組。 ・大木町介護支援専門員連絡会における事例検討会等のファシリテーター、講師依頼を受ける。 ・大木町福祉課主催の認知症サポーター養成講座に参加して地域住民との交流を深める。 ・ライフレスキュー事業等の活用。
④	・基本的なことではあるが、個々の居宅支援において、適切、丁寧な支援を行う。
⑤	・包括からの困難事例、暫定ケアプラン等は積極的に対応する。

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　訪問介護

令和２年度の成果／目標達成できたもの

①	
②	
③	
④	
⑤	

令和２年度の反省／目標達成できなかったもの

①	コロナの影響もあり、利用者数が減少した。
②	収支がプラスになる月がでなかった。
③	
④	
⑤	

＜令和３年度方針＞

活動方針／目標

①	利用者を増やし、安定した運営ができるようにする。
②	月次での収支がﾏｲﾅｽにならない月をつくる。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	サービスのレベルを上げて、リピーターを増やす。
②	特養との兼務職員を活用して提供可能な時間を増やす。
③	居宅の介護支援専門員と密に連絡を取り合い、紹介を依頼する。
④	提供時間と移動時間とを勘案し、無理な依頼は断る。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム　いちご　SWOT分析　R3

強み	弱み
・有給休暇をスムーズにとることが出来る。 ・職員がより働きやすいように改善してくれている。 ・職員が辞めないで長く働ける環境がある。 ・包括支援センターから支援依頼がある。 ・施設長が強い。 ・個別機能訓練を継続することで、下肢筋力を維持し転倒が減少している。 ・定期的に社内研修(リモート）を行っている。 ・数年前よりも急変時の対応が早くなり指示をもらえるので心強い。 ・外部研修に行く人が増えている。 ・ネット（リモート）の環境が整っている。 ・コロナ等何かあった場合に施設としての対策等が直ぐに対応してもらえる。 ・介護機器の導入により肉体的に疲労が軽減出来ている。 ・産休育休後も復帰している職員も多く、育児等しながらでも働く環境が整っている。 ・居宅からショートへの依頼がある。	・介護職員の人数に余裕がない。 ・NSの継続性が少ない。 ・看護職員が足りてない。 ・認知症に対する理解が薄い ・職員間の連携やまとまりがやや足りない。 ・中間管理職の候補となる人材育成が必要である。 ・ＩＣＴの活用の方法がよくわからない。 ・職員の年齢が上がってきた為、肉体的な疲弊が見られるようになった。
機会	**脅威**
・自分の参加したいと思う研修に行く事が出来る。 ・自施設や近隣の居宅支援事業所より通所の新規利用の依頼がある。	・新型コロナウィルスの感染拡大 ・利用者の高年齢により、急変のリスクが高まっている。 ・新規職員（学生）の低下。又介護学科の学生が減ってきている ・新型コロナウィルスの感染拡大によって慰問などの行事ができなくなった。